

アイエックス・ナレッジ株式会社

REPORT

第36期 第2四半期

2013年4月1日～2013年9月30日

株主通信

株主の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

2013年度第2四半期（累計期間）の「株主通信」をお届けするにあたり、ごあいさつさせていただきます。

当期の情報サービス市場は、景況感の回復を背景に、金融業や製造業を中心に情報化投資への具体的な動きが見えてきました。一方で、クラウドコンピューティングやビッグデータなどの新たな技術分野において、今まで以上に多様化する顧客ニーズへの対応が求められてきました。

このような中で当社は、市場の変化に対応した効率的かつ柔軟な経営基盤を構築するため、事業ポートフォリオの利点を活かしつつ、事業の選択と集中を進め、新たな需要の波に備えた受注・生産体制を構築してまいりました。また、顧客目線でのモノづくりを志向するため、営業活動においては、市場の動向を的確に把握するための営業情報の収集とこれに基づく積極的な企画・提案活動を行ってまいりました。

業績では、当期の売上高は前年同期比で増収を果たし、利益面においても順調に推移しておりますが、引き続き第3四半期以降も、採算重視の姿勢を崩すことなく、さらなる受注の拡大に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社事業へのご理解とともに、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年12月

代表取締役社長

安藤 文男



■ 当第2四半期業績／累計

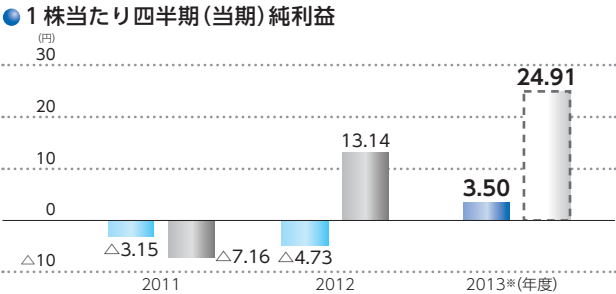
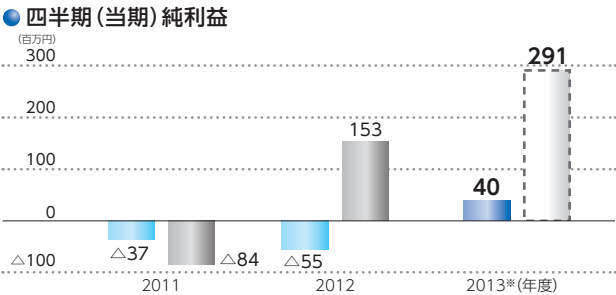
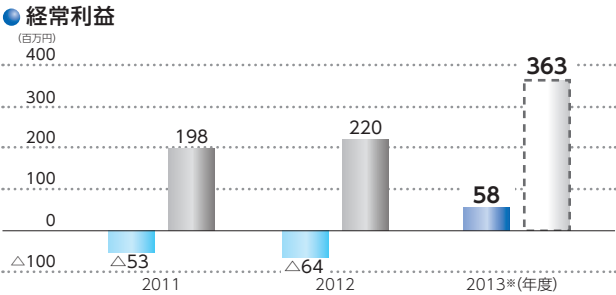
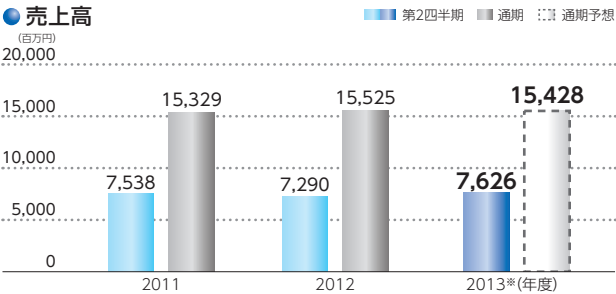
売上高	7,626百万円
営業利益	42百万円
経常利益	58百万円
四半期純利益	40百万円
1株当たり四半期純利益	3円50銭

当期の営業状況をサービス別に述べますと、コンサルティングおよびシステム・インテグレーション・サービス業務では、金融分野において証券取引所や保険会社向けのシステム開発案件を中心に受注を伸ばしました。産業・サービス分野は、大手エレクトロニクスメーカー系の大容量記憶装置の組込みシステム開発が堅調に推移し、化学メーカーの基幹システムや大手広告代理店の番組管理システムなどの大規模案件を受注しました。また社会・公共分野は、通信業向けに開発した料金課金ノウハウをガス業者へ活用したことなどにより、受注面に広がりが見られました。なお情報・通信分野は、売上シェアの縮小を余儀なくされたものの、客観的視点でシステムの品質を検証するシステム検証サービスにおいて、今までの実績をもとに他の案件への展開が図られました。これらのほか、クラウド画像管理システムや物流業の基幹システム、レンタル業の本部システムなど、新たな案件の獲得にも積極的に取り組んでまいりました。

一方、システムマネージメントサービス業務では、統合システム運用管理ツールを利用したシステム運用案件およびサーバー構築案件の拡大を図るも、従来のオペレーション業務の受注減少を補うには至りませんでした。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は7,626百万円となり、利益面では営業利益42百万円、経常利益58百万円、四半期純利益は40百万円を計上いたしました。

業績の推移



※当社は、2013年3月において唯一の連結子会社でありましたアイケーネット(株)の全株式を売却いたしました。そのため、2011年度、2012年度は連結業績数値を、2013年度は単体業績数値をそれぞれ記載しています。

業績の概要

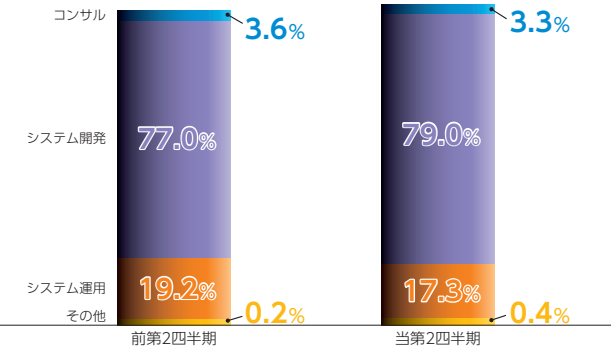
■ 損益計算書 (単体業績) (百万円)

科 目	当第2四半期 (2013年度 第2四半期/累計)	前第2四半期 (2012年度 第2四半期/累計)	前期 (2012年度)
売上高	7,626	7,106	15,129
売上原価	6,487	6,039	12,765
売上総利益	1,139	1,066	2,364
販売費及び一般管理費	1,096	1,152	2,174
営業利益又は営業損失 (△)	42	△ 85	190
営業外収益	21	28	41
営業外費用	5	5	13
経常利益又は経常損失 (△)	58	△ 62	218
特別利益	15	2	60
特別損失	1	16	41
税引前四半期(当期)純利益又は 四半期純損失 (△)	73	△ 77	237
法人税等	32	△ 22	48
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失 (△)	40	△ 54	189

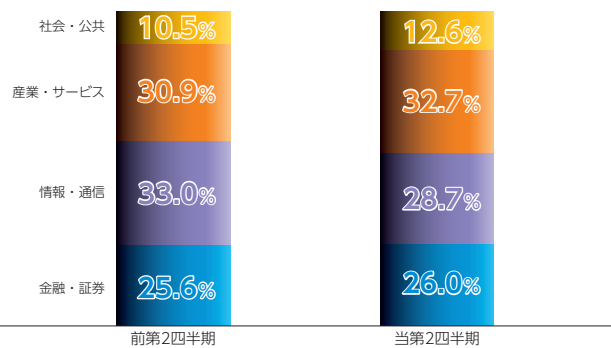
■ 2013年度通期業績予想

売上高	15,428百万円	前期比	2.0%増
営業利益	343百万円	前期比	80.6%増
経常利益	363百万円	前期比	66.2%増
当期純利益	291百万円	前期比	53.9%増
1株当たり 当期純利益	24円91銭	前期	16円18銭

品目別売上高比率



業種別売上高比率



当期では、徐々に中規模の新規案件の受注が活発化してきており、また、サービス上の大きなトラブル案件も無く、納期も確実なものになってきました。

第3四半期以降におきまして、当期に受注した案件を確実に保守しながら、新規・深耕案件にも積極的に取り込んでいくつもりです。

通期業績については、期首の予想数値を上方修正し、売上高154億28百万円（前期比2.0%増）、営業利益3億43百万円（同80.6%増）、経常利益3億63百万円（同66.2%増）、当期純利益2億91百万円（同53.9%増）を見込んでいます。

4月 ◎新入社員48名が入社

6月 ◎代表取締役2名体制へ
◎第35回定時株主総会開催7月 ◎第三者割当による自己株式の処分(10万株、19.7百万円)
◎「PCアップグレード支援サービス」を開始

10月 「メガバンク推進部」「インプレオサービス部」新設

pick up!

アイエックス・ナレッジは、市場動向や顧客ニーズに迅速に対応するため、今期10月1日より新たな二部門を新設しました。ここで、その組織改革に至った背景や今後の展望などについて、それぞれの部門トップよりQ A形式でご紹介いたします。

メガバンク推進部

部長 坂本 浩



Profile

ソフトハウスに入社後、金融機関における勘定系システム開発を経験。その後、不動産業界や企業再生・M&A関連のコンサルタント業界で営業経験を積み、再び情報サービス業界へ。金融系開発現場での協業がきっかけとなり、2011年にアイエックス・ナレッジ入社。44歳。

Q 「メガバンク推進部」新設の背景は？

メガバンク向けのシステム開発業務は、今後長期的かつ大規模な案件の需要が見込まれています。まだ未確定要素は多くありますが、当社にとってもこれまでにない規模感になると思います。こうした状況を前に、全社レベルでの機動的かつ効率的な対応を行うため、執行役員直轄の部門として「メガバンク推進部」が新設されました。文字通りメガバンク向けの開発案件に対応するための部門です。

Q 部門長としての役割は？

顧客折衝と案件スキームの把握、そして全社協力体制の構築です。特に顧客折衝に関しては、以前より現場に携わっていたこともあり、信頼を得ているお客様が数多くいらっしゃいます。そういった方々との密なコミュニケーションによりニーズを汲み取り、迅速

に伝えていくことが最優先の課題ですね。また、現在の体制はパートナー企業を含めて70名ほどですが、開発のピーク時には倍以上の増員が見込まれます。そうした体制面の調整も今後重要な課題になってくると思いますが、そこは全社的な協力体制を約束してもらっているので、非常に安心感があります。

Q 今後への意気込みは？

いままでに経験のない規模感の開発案件ですが、不安よりもワクワク感のほうが大きいです。一方では冷静に判断し、一方ではこのプレッシャーを楽しもうと思っています。もちろんメンバーにも、この機をビッグチャンスととらえて、思う存分楽しんでもらいたいですね。

インプレオサービス部

部長 稲葉 寛



Profile

1991年アイエックス・ナレッジ入社。大手通信事業者の現場において情報系や課金系システムの開発案件、基幹系システム再構築の受入試験などに携わる。自動車部品メーカーなどの現場を経て、直近では大手損害保険会社でのシステム検証案件を担う。46歳。

Q 総合品質ソリューションサービス『インプレオ』とは？

そもそも『インプレオ』という言葉にはラテン語で「満たす」の意味があります。具体的には、システムライフサイクルをモニタリングし、高品質なシステムを実現することで、「お客様の満足につながる」ことを目指すサービスです。その中核をなすのが第三者検証。簡単に言えば、エンドユーザーや開発ベンダーに代わって、客観的にシステムの品質を検証するサービスです。上流の要件定義検証、システム開発検証、システム受入検証、さらにはシステムリリース以降の運用工程をも視野に入れた総合的な品質ソリューションとして位置づけているのが『インプレオ』です。

Q 「インプレオサービス部」の役割は？

大手通信事業者の現場で積み上げた検証サービスの実績を核として、大手損害保険会社などへお客様が広がりつつあるという状況の中、さらに『インプレオ』をさまざまな業界へ展開・拡販し

ていくことが大きな役割としてあります。また一方では、サービスメニューの拡充も必要です。システム品質の検証にはいろいろな視点や切り口がありますから、お客様のさまざまなニーズに合わせたサービスメニューの構築など検討を重ねています。

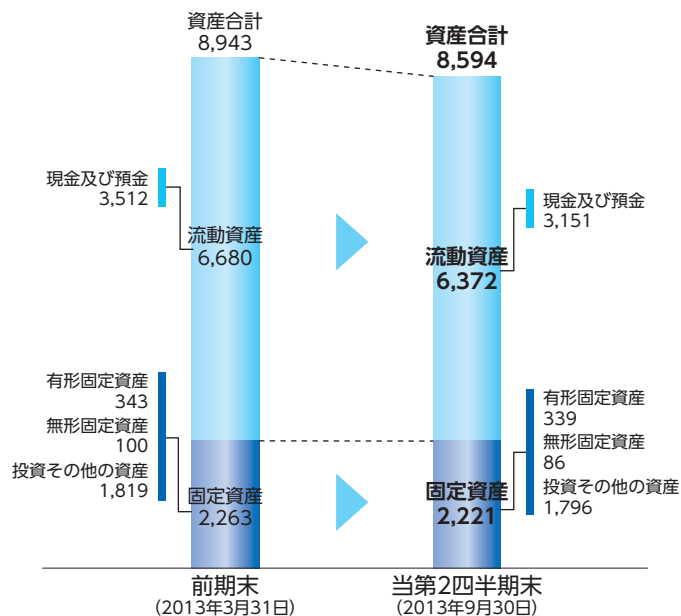
Q 今後への意気込みは？

これまでお客様より高い評価を受けてきた業務プロセス獲得のノウハウと、システム毎の性格に合わせて最も有効なテスト技術を駆使する品質向上のノウハウが『インプレオ』の強みです。いまや情報システムも社会インフラとして重要な位置にあり、品質に対する市場ニーズはますます増えてくるものと見込んでいます。『インプレオ』でお客様に喜んでもらうためにはどうしたら良いかを部全体で考え、私たちもハッピーになりたい、と思っています。

貸借対照表の概要

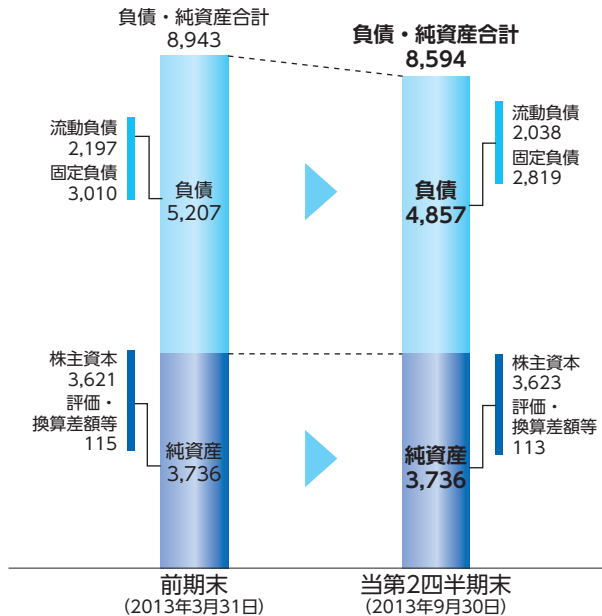
●資産合計

(百万円)



●負債・純資産合計

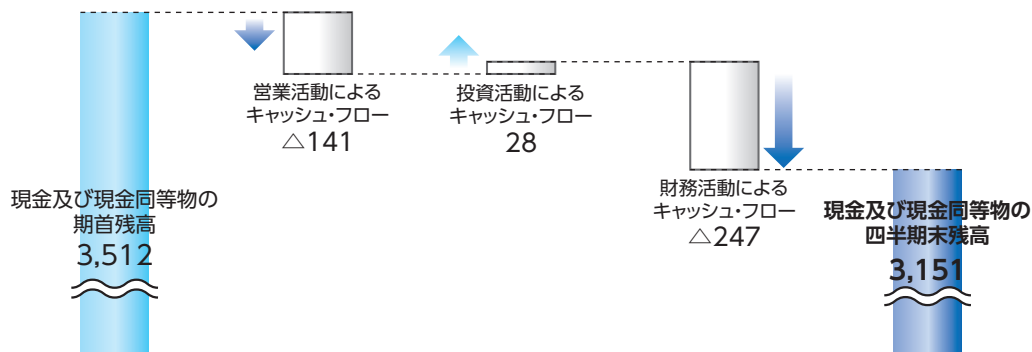
(百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

当第2四半期
(2013年4月1日～2013年9月30日)

(百万円)



株式の状況 (2013年9月30日現在)

発行可能株式総数

50,000,000株

発行済株式の総数

13,034,660株

株主数

1,074名

大株主

株主名	持株数 (千株)	議決権比率 (%)	
IKI持株会	1,658	14.53	
安藤文男	1,515	13.28	現当社代表取締役社長
安藤多喜夫	1,149	10.07	現当社相談役
(株)三菱東京UFJ銀行	214	1.87	
(株)千葉興業銀行	203	1.77	
春日正好	203	1.77	現当社最高顧問
(有)エム・ビ・エス	200	1.75	
三井倉庫(株)	200	1.75	
山本カナエ	147	1.28	
住友生命保険相互会社	139	1.21	

※自己株式1,267千株を保有しております。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月に開催

同総会議決権行使 3月31日

株主確定日 3月31日

期末配当金受領 3月31日

株主確定日 3月31日

中間配当金受領 9月30日 (中間配当を行う場合)

株主確定日 9月30日 (中間配当を行う場合)

その他の基準日 上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定いたします。

公告掲載URL 当社ホームページ
http://www.ikic.co.jp/ir/download.html
に掲載いたします。(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

単元株式数 1,000株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(同連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

上場金融商品取引所 東京証券取引所 (JASDAQスタンダード)

アイエックス・ナレッジ株式会社

〒108-0022 東京都港区海岸3-22-23
TEL.03-6400-7000 (代表) FAX.03-6400-7900

